

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 板櫃 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

#### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

#### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

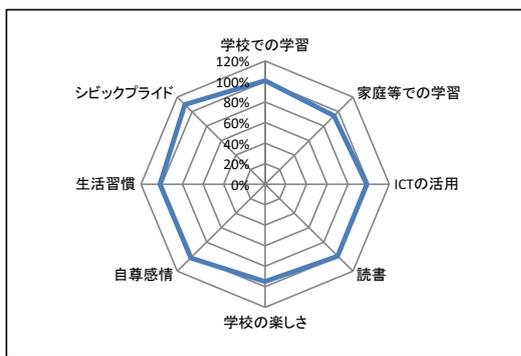
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の問題については全国平均を上回っているが、文書を読み、自分の考えを相手に伝えるように書く問題は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確に説明する問題	
	努力が必要な問題	・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	図形や関数についての問題は全国平均を上回っているが、数式に関する問題や「思考・判断・表現」を有する問題においては全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・多角的の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明する問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っている問題もあるが全体を通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」共に全国平均を下回っていることが多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・科学的な探究を通して、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目し、表現する問題	
	努力が必要な問題	・化学変化に関する実験結果を分析して解釈し、表現する問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
【学びの育ち】	○「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」という問いに対して、90%以上の生徒が肯定的な回答をした。しかし、土日の学習時間に対する問いや、学校の授業以外でICT機器を勉強で使っているという問いに対しては肯定的な回答をした割合は全国平均を下回っている。
【心の育ち】	○自尊感情に関する問いでは肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回っている。しかし、学校の楽しさに対する問いにおいて全国平均をやや下回っている。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・学力検査では、国語、数学とも本校の正答率が全国平均を上回ったが、国語においては読むこと、書くことを問う問題、数学においては思考・判断・表現を問う記述式の問題において無回答率が高いことが明らかになった。理科においては本校の正答率が全国平均を下回っており、記述の問題において無回答率が高かった。授業で、自分の考えや意見を表現できるような学習環境づくりを進めていくことが大切である。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習は、自分に必要な学習を進める大切な時間であることを、学校と家庭で共通認識し、自ら学ぶ習慣を身につけていく必要がある。  
・朝食を毎日食べている生徒の割合が全国平均を下回っていたため、給食指導や食育指導を通して、規則正しい生活習慣が身につくように学校と家庭で連携を図っていく。